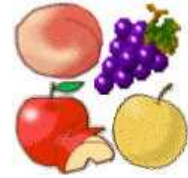




# 令和2年度 果樹情報 第4号

(令和2年5月22日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (5月前後半：果樹研究所)

5月の平均気温は、1半旬が20.2℃で平年より5.2℃高く、2半旬が15.0℃で0.7℃低く、3半旬が18.1℃で2.7℃高く経過しました。この期間の降水量は2.5mmで平年比6%でした。

## 2 土壌の水分状況 (果樹研究所)

5月14日現在の土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで3.0、深さ40cmで2.6、深さ60cmで2.3となっており、やや乾燥状態にあります。

## 3 発育予測 (果樹研究所)

### (1) もも

発育速度 (DVR) モデルによる「あかつき」の発育予測では、本年の硬核開始日は6月5日頃で平年より5日早い見込みです。

表1 ももの発育予測 (5月15日現在)

品種	硬核開始日		
	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月5日	6月10日	5日早い

注) 平年値は1986～2015年の平均値

### (2) ぶどう

発育速度 (DVR) モデルによる「巨峰」の開花予測では、今後の気温が平年並に推移した場合、開花始めが6月4日頃、満開は6月7日頃の見込みです。

表2 ぶどう「巨峰」の開花予測日 (5月15日現在)

発育ステージ	今後の気温経過と開花予測日				
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
開花始め	5月30日	6月6日	6月4日	6月1日	6月8日
満開	6月2日	6月10日	6月7日	6月4日	6月11日

注) 平年値は1988～2015年の平均値

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

## 4 栽培上の留意点

### (1) 凍霜害対策

果樹類の多くは幼果期となっていますが、引き続き気象情報に注意し、降霜のおそれがある場合は防霜対策を実施しましょう。ぶどうやかきは展葉期に凍霜害を受けると花器だけでなく新梢も障害を受けるので十分注意しましょう。

## (2) 土壌管理

### ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日が6～7mm、曇天日が2～3mm、平均が4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くします。

### イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょ（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょ。

## (3) も も

5～6月は新梢や果実の生育が旺盛な時期のため、着果管理や土壌の水分管理等を徹底し、新梢及び果実の初期生育を促しましょ。

### ア 予備摘果

摘らいや摘花を行わなかった場合や摘らい程度が弱く着果数が多い園地では、予備摘果を必ず実施しましょ。なお、品種により着果量が少ない場合は、仕上げ摘果から作業を行います。

### イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年の硬核開始は6月5日頃（果樹研究所）と予測されるため、仕上げ摘果はこの頃までを目安に終了しましょ。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生状況を見ながら加減しましょ。

核頂部に断裂などの重度の障害を生じた果実は、満開後45日頃になると果頂部の片側の肥大不良が目立ってくるため、果形に注意して仕上げ摘果を実施しましょ（図1）。

### ウ 樹勢回復対策

早めの摘果作業に心がけるとともに、必要な着果数まで速やかに摘果し、新梢の生育を促します。

また、乾燥傾向にある園地では、積極的にかん水を実施するなど土壌水分の確保に努めましょ。

新梢伸長が劣り、葉色が薄いなど樹勢低下がみられる園地では、早期の摘果により着果量を制限するとともに、5月中を目安に、速効性肥料（窒素成分で2kg/10a程度）または窒素成分を含む葉面散布剤を使用して樹勢の回復に努めましょ。

### エ 新梢管理

5月下旬から6月中旬にかけては新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹内が混み合ってきます。樹冠内部や主枝、垂主枝の基部、側枝の基部などから発生する徒長しやすい新梢は、早めに摘心や夏季せん定を実施し、適正な樹体管理を心がけましょ。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか最小限とします。

## (4) りんご

### ア 予備摘果

実止まりを確認できしだい予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するように努めましょ。原則として中心果を残し、着果の多い樹や樹勢の弱い樹から摘果します。

結実が良好な園地では、長果枝や葉の少ない果そう及び肥大不良果そうの果実は摘除し、着果負荷の軽減を図りましょ。

結実が悪い園地では、果実形質がはっきりしてきた頃から予備摘果を実施し、形質の良い果実は着果間隔が近くとも積極的に残すようにします。凍霜害等により中心果の結実が不良な場合には、形質の良い側果を利用し、着果量の確保を優先します。

なお、予備摘果では果柄を取り除くと腐らん病の予防に効果的です。



図1 核頂部の障害と果頂部の変形

#### イ 新梢管理

予備摘果と平行して、主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽から発生している新梢をかき取りましょう。

#### (5) なし

##### ア 予備摘果

予備摘果は満開後30日以内に終了するように努めましょう。ただし、品種により結実状況にバラツキがあるため、確認しながら作業を進めましょう。

##### イ 仕上げ摘果

「幸水」の仕上げ摘果は、肥大不良果の除去を中心に行い、満開後50日頃までに終了するように努めましょう。

##### ウ 新梢管理

予備摘果と並行して芽かきを実施し、主枝や亜主枝の背面枝はかき取りましょう。不定芽新梢が混み合っている部位は芽かきで2～3本に整理し、適度な間引きを実施します。予備枝は風による新梢折損のおそれが無くなったなら先端新梢を一本に整理しましょう。

##### エ 樹勢回復対策

この時期に土壌が乾燥している場合は、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水により土壌水分を確保しましょう。

平年より新梢伸長が不良で葉色が薄い場合には、早期摘果で着果量を制限するとともに、5月中を目安に窒素成分を含む葉面散布剤を使用するなど樹勢の回復を図りましょう。

#### (6) ぶどう

##### ア 芽かき

「巨峰」等の4倍体品種の無核栽培では、やや強めの新梢を確保することを心がけましょう。芽かきの1回目は展葉4～5枚時に副芽や極端に強い新梢を取り除きます。2回目は新梢の生育差が判断できる7～8枚時に誘引作業と併せて行いましょう。新梢が混み合う部分や、弱い新梢を中心に取り除きます。3回目は結実後に新梢の混み合う部分の手直しや徒長的で結実の悪い新梢をかき取りましょう。

有核栽培では、1回目の芽かきは展葉初期に副芽や結果母枝の基部2～3芽をかき取りましょう。なお、晩霜害の危険がある場合は、副芽の芽かきを次回に行います。2回目は晩霜害の危険がなくなりしだい早めに行い、展葉7～8枚目までに母枝先端の極端に強く花振りの危険性が高い新梢を中心整理しましょう。3回目は無核栽培と同様に実施します。

##### イ 誘引

有核栽培では新梢が30～40cm程度に伸びた頃から新梢誘引を行いましょう。無核栽培では強めに発生する新梢が多いため、あまり早くから誘引すると折れる可能性があるため、50cm程度に伸びた頃から行いましょう。また、「あづましずく」の新梢は硬く基部から折れやすいため、無理に誘引せず時期をずらして行いましょう。

新梢誘引、摘穂、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。

##### ウ かん水

土壌の乾燥が続くと、新梢の初期生育が劣り、新梢伸長と花穂発育のバランスが崩れて花振るい等を誘発することが心配されるので、必要に応じてかん水を実施し、土壌水分の確保に努めましょう。

#### (7) おうとう

1花束状短果枝当たり3～4果（樹勢が適正な場合）を目安に早めの摘果を実施しましょう。なお、着果量は、葉数に応じて加減し、樹勢が強く新梢の生長が旺盛な側枝ではやや多めに、樹勢が弱い場合は少なめにします。結実不良が認められる場合には、葉数に応じた着果量の確保を優先しましょう。

「佐藤錦」の硬核開始は5月16日頃（満開後18日）と平年並に推移しているため、摘果、雨よけ被覆、着色管理などの管理作業が遅れないよう計画的に行いましょう。

## 5 病害虫防除上の留意点

5月18日に「低温に関する福島県気象情報 第1号（農業技術情報第4号参照）」が発表されました。また、5月19日における各観測地点の降水量は、福島が33mm、郡山が25mm、相馬が113mm、若松が13mmとなっています（気象庁発表）。さらに、5月20日17時仙台管区気象台発表の週間天気予報では、中通り、浜通りは23日頃まで天候がぐずつく予報となっています。

ぐずついた天候が続くと病害の発生が懸念されるため、病害虫防除を徹底してください。

### (1) 病害

#### ア モモせん孔細菌病

5月上旬の県北地域における春型枝病斑の発生は場割合は平年より高く、すでに新梢葉での発生が確認されています（5月15日付け令和2年度病害虫発生予察情報・注意報第2号）。今後の風雨などの気象条件によっては発生が急激に増加することが予想されるため、罹病部位のせん除など耕種的防除を徹底し、園内の菌密度の低下に努めてください。新梢が伸長して葉数が増加すると、春型枝病斑の発見が困難となる場合がありますが、新梢葉の生育不良や罹病葉の発生位置を目安に早期せん除に努めましょう（図2）。

また、降雨前の予防散布を基本とし、せん孔細菌病防除剤を必ず使用してください。



図2 見落としやすいモモせん孔細菌病の春型枝病斑

#### イ もも灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、他の核果類やももの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

#### ウ なし黒星病

果そう基部病斑は、鱗片の固着を目安に見つけしだい除去して適切に処分しましょう。また、5月中の薬剤防除は約7日間隔で実施し、病原菌の初期密度の低減を図りましょう。

果樹研究所では5月7日に果そう葉での初発を確認しており、この感染は前回予想の4月18日から20日にかけての降雨によると考えられます。その後は、5月18日までは感染好適条件は出現していませんが、すでに果実や葉で発生している園地は罹病部位の除去や散布むらのないように防除の徹底を図りましょう。



## (2) 虫害

### ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は、気温が平年並に推移した場合、5月4半旬と推定され、第1世代の防除適期は6月1半旬と推定されます。また、リンゴコカクモンハマキも同時期と予想されます。

フェロモントラップによる予察調査を行っている場合は、誘殺盛期から10日後頃が防除適期にあたるため、この時期に防除しましょう。

### イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第1世代成虫の誘殺盛期は、気温が平年並に推移した場合、6月1半旬と推定され、第2世代の防除適期は6月2半旬と推定されます。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、このような発生源が近隣に存在する園地では今後も発生に注意しましょう。

### ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第1世代成虫の誘殺盛期は、気温が平年並に推移した場合、6月5半旬と推定され、第2世代の防除適期は7月1半旬と推定されます。

本種の第1世代幼虫は、主にもも等核果類の新梢に寄生（心折れ症状）し、第2世代以降はなし等の果実に移行します。例年、なしでの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。

### エ カメムシ類

山間及び山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和2年5月15日現在）

今後の気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月19日	5月31日	6月1日	6月6日	6月17日	6月25日
平年並	5月19日	6月3日	6月3日	6月9日	6月22日	7月2日
2℃低い	5月21日	6月8日	6月8日	6月15日	7月2日	7月12日

注) 起算日：リンゴモンハマキ3月1日、モモハモグリガ4月27日、  
ナシヒメシンクイ5月3日（演算方法は三角法）

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>